

『あなたへ ありがとう』

茨城県 木村薫子（72）

三月十八日午後、震災・原発の恐怖から、京都の娘の家を目指して茨城空港から神戸へ。三宮へ向かうポーターライナーに乗り換えた私のそばに、髪の高い美しい若い女性が友人と明るく話をしていました。

阪神三宮から近鉄奈良への直通電車に乗り換えるように、とあった娘のメールのことを話すと、彼女は迎えに来ていた自分の母親に荷物を頼み、阪神三宮駅まで私たちが老夫婦の荷物を両手に、病身の我が夫を気遣いながら乗車券売場まで案内してくださいました。エスカレーターも止まっている中、重い荷物を事もなげに持ち、長い階段を進む彼女の姿は、まるで女神のようでした。

現在は水戸の職場に戻り、元気に働いているだろうか。名前も聞かず別れた彼女。本当にありがとうございました。私どもも元気に過ごしながら、あの日のことを忘れることはありません。

― 掲載に当たり、筆者からメッセージ ―

当時、茨城の病院では品切れで断られた主人の薬も、持参した健康保険証やお薬手帳のおかげで、奈良市や京都の病院から出していただきました。体調の悪い主人の様子に、近くの消防署では「救急車を」と言ってくださり、娘の近所の友人たちも何かと心を配ってくださいました。多くの親切に救われた感謝の日々でした。